

# うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第66号

2023(令和5)年2月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

## 古人の経験と智慧に学ぶ — 棉栽培法再考 その1 —

棉の栽培に取り組み始めて今年で16年目を迎えます(2008年より栽培開始)。今回、棉の栽培法を再考しようと思いついたのは「木ぼけ」がきっかけです。昨年とはくに1号畑の和綿で、枝葉ばかりが繁茂し実付きがきわめて少ない木ぼけ(サツマイモ栽培時のツルぼけに同じ)の傾向が顕著でした。これまでも試行錯誤を繰り返してきたつもりですが、もう一度原点にもどり、「どう育つか」ではなく「どのように育てたいか」という視点から栽培に取り組んでみたいと思います。

ちなみに、ワタを「棉」と「綿」に書き分ける場合は、畑で生長する植物としてのワタを棉、繊維素材として活用される収穫綿花その後のワタを綿、とするのが一般的です。また、木綿庵の畑における14年間の棉栽培の記録は、Livedoor Blog「綿の栽培記録」(H.A.M.A.木綿庵のHPのホームページにもリンクボタンを設けています)からご覧いただくことができます。

昨年、「2022全国コットンサミットin松阪」に参加し、棉栽培に取り組んでおられる各地の方とお話させていただく中で、特に興味深かったのは土作り、施肥についてでした。肥料を一切用いない方、鶏糞のみの方、牛糞+鶏糞+石灰の方、主に化学肥料のみを用いておられる方等さまざまでしたが、みなさんそれぞれ一様に納得のいく収穫を得られている由。なぜでしょうか。一つは、風土、土質の違い。そして、栽培農地における前作施肥の残効による影響が考えられます。これは、同じ一枚の畑の中であっても、前作を踏まえて畝によって施肥料を調整する必要があるのと同じです。

野菜の栽培マニュアルでは、基本的には定植(播種)2週間前に苦土石灰、1週間前に完熟堆肥と化成肥料をすき込むと良いと記されていますが、基準となる施肥前の土壌をどのように想定しているかが問題です。棉の栽培においても同様で、その土地の風土、栽培地の土壌に即した栽培法が必要になってくるはずです。

棉の連作障害については、「あり」「なし」の両説を耳にします。これまでは経験的に「なし」を支持してきましたが、10年目を迎える頃より、心持ち樹勢が弱く、実が小ぶりになってきたように感じ始めました。しかも、昨年の洋綿(アブランド)のコットンボール1個の重さは標準4.2gでしたが、2016年の記録では約6gと記されています。

棉の栽培法を再考するにあたり各種文献を繙いてみると、おもしろい記述を見つけました。

「棉花を連作する時は早熟となる利あれども六、七年以上に及ぶ時は収量を減ずるを免れず。故に五年乃至七年目には一ヶ年他の作物、例へば甘藷、西瓜其他の作物を輪作し圃地を深く耕起するを可とす。前年甘藷、西瓜、等を栽培せる地はその蔓は全部土中に埋没するを普通とするを以て有機質を増し、その翌年綿花を栽培するに当り、普通肥料を施用する時は土地肥沃に過ぎ生育旺盛となり棉茎の徒長を免れざるを以て、此の場合には原肥の施用を控へ肥料は三割減となすを安全とす。」(幡原隆治『日本棉花栽培法』丸山舎、昭和9年刊、88頁)

もう一度、古人の経験と智慧に学ぶところから始めたいと思います。



棉木引きを終えた7号畑

### Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和年11月26日~令和5年2月25日)

埼玉県2、千葉県2、東京都6、神奈川県1、石川県1、山梨県1、静岡県3、京都府1、大阪府2、兵庫県1、奈良県2、和歌山県1、岡山県2、広島県1、山口県1、愛媛県1、福岡県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和4年11月26日~令和5年2月25日)

メールを含む各種相談件数4、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数9組26名



## 《綿の栽培記録 2022》－ 令和4年度版 その6－

天理市乙木町における梅田の感覚的气象観測データ(令和4年11月23日～令和5年2月19日)は、Livedoor Blog「綿の栽培記録」(H.A.M.A.木綿庵のHPのホームページにもリンクあり)をご参照ください。

綿畑では、12月18日に6号畑の綿木をすべて引き終えました。また、12月25日に1号畑の和綿、7号、10号の和綿、洋綿の綿木もすべて切り倒し、1号畑の綿木はその日のうちに綿木焚きを行いました。その後6号、7号、10号の綿木焚きも年内に済ませ、今シーズンの綿の栽培作業をすべて終了いたしました。

### 《ジンニングマシン(電動綿繰り機)によるジンニング》 令和4年12月、同5年2月

今回、奈良県大和高田市で綿の栽培に取り組んでおられる靴下メーカーの(株)三笠様のジンニングマシン(電動綿繰り機)をお借りすることができました。ジンニングとは、綿繰りを意味します。

機械は、オークラ工業製で、処理能力は、今回の場合は1時間で和綿(実綿)が4kg。洋綿だと6~8kg/時が可能だそうです。なお、(株)三笠様の奈良工場では持ち込みに限り、1回1,000円の利用料でジンニングマシンを使わせていただくことが出来ます。詳しくは直接、奈良工場様宛にお問い合わせください。

### 《綿の収穫量の記録 2022年産》 和綿+洋綿 = 14,384g

2022年(令和4年産)の綿花総収量が確定いたしました。以下のとおりです。今期は収穫初期の8月後半から9月上旬にかけて雨が多かったこと、1号畑の和綿が「木ぼけ」気味(枝葉ばかりが繁り実の数が少ない)であったこと、栽培面積を少し減らしたことなど、諸々の要因がかさなって和綿の収穫量は前年を大きく下回りました。過去5年分の収量と合わせてご覧ください。

#### ◇和綿

1、大和山辺綿：赤木種	5、	5 5 6 g
2、大和山辺綿：青木種		4 6 4 g
3、その他、和綿混合	2、	1 5 6 g
4、コットンボール実綿換算		5 0 0 g (200個×2.5g)

和綿合計 8、6 7 6 g

#### ◇洋綿

5、アブランド	2、	4 7 4 g
6、スーピマ(交雑種)	1、	5 5 4 g
7、コットンボール実綿換算	1、	6 8 0 g (400個×4.2g)
洋綿合計	5、	7 0 8 g

和綿+洋綿 = 14, 3 8 4 g

ちなみに、栽培面積には変動があるものの、ここ数年の当庵の綿花収量は下記の通りです。

2017年	和綿 5,090g	洋綿4,741g	茶綿(和) 890g		
2018年	和綿 8,802g	洋綿2,683g	茶綿(和) 560g		
2019年	和綿 7,033g	洋綿9,496g	茶綿(和) 12,586g	茶綿(洋)2,373g	緑綿(洋)490g
2020年	和綿 16,134g	洋綿3,235g	茶綿(和) 2,868g	茶綿(洋) 76g	緑綿(洋) 86g
2021年	和綿 13,922g	洋綿3,504g			
2022年	和綿 8,676g	洋綿5,708g			



ジンニングマシン (2月2日)

### 【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：令和元年, 2019年産。丹羽正行氏による打ち綿)  
令和4年11月26日～令和5年2月25日 (作業実日数38日) 糸の総量92.0g (24.5匁) 総時間408分  
※1分間≒0.225g 1時間≒13.5g (3.6匁)

### 【研修等の記録】

- 令和4年12月06日 (株)三笠様の奈良工場(大和高田市)にてジンニングマシンをお借りする。1回目
- 令和4年12月17日「平野郷 綿とくらし博物館」(大阪市平野区)開館準備のお手伝い
- 令和5年01月17日 公益社団法人奈良県食品衛生協会「食品衛生責任者養成講習会」受講(橿原市)
- 令和5年02月02日 (株)三笠様の奈良工場(大和高田市)にてジンニングマシンをお借りする。2回目
- 令和5年02月11日「平野郷 綿とくらし博物館」(大阪市平野区)見学および平野郷散策
- 令和5年02月18日 文化会議講演会：谷山正道氏「百姓の道一化政期大和の農村事情」(天理市)聴講